

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームななかまど歌志内館 1号館	評価実施年月日	平成20年7月7日
評価実施構成員氏名	伊藤正和・千葉沙耶香・高橋勇輝・長谷川淳一・石場菜摘・高山理恵子・順吉佳奈・毛利真美		
記録者氏名	伊藤正和	記録年月日	平成20年8月7日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域での生活、なじみの暮らしの継続、地域住民との交流、地域貢献など地域密着型サービスとして大事にしていきたい視点が盛り込まれて理念の構築がされている。ケアを通して得ることの出来る「気付き」の視点を大切に、それを入居者さんに限らず、広く地域へと活かせる事業所作りを目指しています。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝のミーティング時に全員で復唱し、ケアの基本、よりどころであることを確認している。また建物内の目につきやすい場所に掲示し、常に振り返ることできるようにしている。 職員の何気ない「気付き」が入居者さんのより良い暮らしへと活用できるように、1日3回のミーティングをしっかりと行い、その日のサービスプランに取り入れて、具体的なサービスとして実践できるように取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族や町内会には2ヶ月に1度広報誌の「ななかまど通信」を配布しています。その中で事業者の活動を伝えることで、理念を理解していただけるように取り組んでいる。また、地域や町内のイベントに積極的に参加し、地域住民と交流の機会を持ち、事業所の取り組みについて伝えています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	通りに面した場所に花壇があり、その手入れや草取りの際に、近隣住民の方より声を掛けていただいています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会し、イベントに参加させていただいています。	○	昨年まで、一部の入居者の参加やただその場に足を運ぶという程度だったことを反省し、もっと積極的・主体的な参加・交流に取り組んできた。清掃活動、敬老会、七夕や盆踊り、新年会などに参加し、住民の人々と触れ合うこと意識しました。また昨年町内会より、声がかかり、夏休みのラジオ体操の場所として事業所の庭を提供させていただき高く評価をしていただきました。様々な場面で町内の方々と触れ合う機会が多くあります。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ラジオ体操の場所を提供させていただいています。高齢者の方の参加もありました。 人材育成の観点より実習生の受け入れも、積極的に行っています(認知症ケアに少しでも触れて、介護や医療、福祉の分野に出て行ってもらいたい)。 事業所の広報誌の配布による情報(認知症やそのケアについて)の発信。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をするにあたり、会議の場をもうけて自己評価および外部評価の意義を職員に伝え、再確認し取り組んだ。前回の評価では指摘事項がなかったが、日々の仕事の点検として、自己評価の項目を活用し、ケアの質の維持と向上に努めている。		
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に会議を開催し、そこで助言をいただいています。助言に対しては話し合いをし、ケアや運営に活かせるように取り組んでいます。		
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所等へ出向く機会を設けて、お互いに情報の交換や近況の報告、相談を行っています。	○	空知中部広域連合主催の介護支援専門員調整会議の参加や、広域連合内1市5町の地域包括支援センターを訪れ入居状況などの報告を行いました。
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、それらの事業や制度を利用している入居者さんはいませんが、事業所内での勉強会や外部での研修に参加し、理解に努めている。		
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会への参加や勉強会の開催を行い、虐待について職員の理解を深めています。虐待はその本人に自覚がないことが多いので、ミーティングの際などに注意を促したり、職員のケアを点検することで防止につなげています。		
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	1度だけではなく、複数回面談する機会を設けて、相手の疑問や不安を一つひとつ確認しながら、十分な納得と理解が得られるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の暮らしの中で表現される、入居者さんの言動や表情などから意見や不満を汲み取り、運営やケアに活かせるようにミーティング時などに話し合いをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月介護記録・手紙・写真・金銭管理帳などを送付し、入居者さんの暮らしぶり、健康状態、お小遣いの使用状況などを報告を行っている。入居者さんのことに限らず、施設の運営や活動に関しても毎月報告している。また随時、電話での連絡、面会時での報告を行っている。法人の基本方針として、どんな些細なことに対しても迅速に連絡・報告するようになっていきます(1円でも使う際は家族にまず連絡するなど)。また施設内にて介護記録等を閲覧できるようになっています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	改まった形でなくとも、面会などの祭の何気ない会話の中に家族の要望、意見、疑問が隠れていることが多いので、それを汲み取り、ケアの質の確保、施設運営の改善につなげている。 苦情の受付に関しては、担当窓口があることを入居時に説明している。また外部機関に申し出ることができることを説明している(ポスターも掲示しています)。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のミーティングや各種の会議、個人面談などの際に職員の意見を聞き、その意見を多くの職員で検討する機会を儲け、ひとり一人の意見が反映されるように取り組んでいる。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者さんの状態の変化や季節の移り変わりに合わせて、勤務時間帯や体制を変更し柔軟に対応できるように取り組んでいる。1ユニット、1事業所の枠にとらわれずに、職員の行き来があるので、十分な対応が可能となっています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動・離職に対しては、しっかりと引継を行う事で、切れ目のないサービスを提供している。また居室担当を2名体制で行い、一人の離職に対して入居者のダメージを和らげるように配慮している。 また仕事あるいはそれ以外でも日に頃からユニット間、事業所間で職員と入居者さんの交流を持つようにしているので、職員の交代や異動が起きても馴染みの関係作りがスムーズに行えています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人においては計画的に研修を行っている(新人研修、継続研修) 外部での研修に対しては、全職員に告知し、参加の意志があればシフトを調節し、参加出来る様にしている。	○	内部研修や勉強会については、職員から内容を募り、職員の学びたい内容を学べるように取り組むことが出来ました。 毎週1回自主的な学習会を設けて、各職員が1週間の仕事を振り返り、学ぶ機会を設けています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症ケアネットワークやGH協議会を通して、相互訪問・勉強会・研修会や親睦会・交流会を行い、お互いが向上出来る様に取り組んでいる。	○	小樽市の町内会の神輿担ぎに参加する機会を持つことができました。他の事業所の地域密着型サービスとしての取り組みを肌で感じる良い機械となりました。また先日は美唄のななかまどの夏祭りに参加し、岩見沢や小樽などグループホームの方々と交流を持ちました。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員も楽しめる運営を考えている。特に地域イベントへの参加などは職員が率先して楽しむように伝えています。 日頃から仕事の話題に限らず、各職員と会話するようにしています。	○	有給休暇をとる職員が少なかったので、職員の希望を聞いてシフトを調節し、休暇を取れるようにしている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	経験や努力、実績など各職員の段階に応じて、外部の研修への参加や資格の取得を積極的に応援していただいている。その為にシフトの調節や勉強会の開催を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談を重ねて本人の思いを聴けるような関係作りを行い、施設訪問をしていた中で打解けてもらえるように職員全員で受け入れる体制をとっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	まずは家族の置かれている状況を良く聞き、それまでの家族の苦労や不安などの思いを理解する事から始めています。面談や施設訪問、家庭訪問を重ねて、話し合いを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談を重ねる中で、本人・家族の状態・状況を理解し、必要なサービスは何かを考えて相談に応じています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	面談や施設見学、家庭訪問など入居前に職員や施設、他入居者さんに馴染む場面を多く設けるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	若い職員が多くいるので、調理や畑仕事などの場面では入居者さんの方が多くを知っているようで、教えられる場面が多くあります。 町内会のイベントなどは職員も大勢参加し、共に楽しんでます。その姿を見て入居者さん達も嬉しそうです。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	なかなかシートや一月の様子を伝える手紙、写真を毎月家族に送付しています。その中で入居者さんのケアや生活に関しての課題などを伝え、ともに考えて行ける様に支援しています。また面会時などにもしっかりと話をするようにして、様々な機会に家族と認知症について、ケアについて考えるようにしています。	○	今年度の目標の一つとして、ケアへの家族参加をあげ、それを家族に伝えています。また「家族で治そう認知症」という本を家族に送り、認知症ケアにおける家族の力の重要性を理解していただけるように努めています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人・家族の心理的な段階を踏まえて、通信支援や面会、外出や外泊、行事への参加呼びかけなど支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援マップを活用し、なじみのお店や理美容室、知人や友人の把握に努め、関係が途切れないように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さんどうしの相性を把握し、馴染みの入居者同士が過ごせる場所を確保している。また互いに協力し助け合える場面作り(調理場面や食後の片付けなど)を行っています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関係が保てるように、面会や電話連絡を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とのコミュニケーションを大切にしている。特にその日をどのように過ごしたいのかを会話や様子などから把握出来る様に毎朝の関わりを大切にしています。困難と思える入居者さんでも顔や目の表情で表現している場合もあるので、本人との関わりを第一に考えています。困難な場合は、生活歴や習慣などから検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、入居後と継続して、本人や家族と対話しながらじみの暮らし方などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ななかまどシート等各種のシートを活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員一人ひとりが入居者さんの目線でケアや環境などここでの生活全体を観察し、シートに記録し、またそれをミーティングやケア会議の場などで話し合っている。家族とは面談や面会時、電話でのやり取りにおいて要望を聞き、ケアプランに活かしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人や家族、各関係者と話し合いにて見直しを行っている。状態の変化があれば、期間にとらわれずに随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるように努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ななかまどシートや運営日誌、ケアミーティング記録に記入し、情報の共有と職員の気づきの活用を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診や買い物、ドライブなど外出に対しても本人や家族の意を汲んで柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会やボランティア、近隣施設の利用など、協力を得ている。他の関係機関とも連携している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の体調や状態に応じて訪問美容室を利用するなど、連携を取り、他のサービス利用も出来るように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ訪問や電話連絡など行い前向きな解決につなげるために相談や助言をもらい協働している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設前の病院が往診医となっており、本人・家族と相談しながら往診を受けられる体制や希望する病院受診を出来る様にしている。地元かかりつけ医の他にも近隣地域の病院でも対応してもらえる様に連携を図ると共に、本人・家族と相談しながら適切な医療を受けられるよう関係機関と連携を取っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的に専門外来を受診しており、相談できる体制が出来ている。また専門外来が開催する勉強会等へも積極的に参加しています。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員がいるので些細なことでもお互いに相談等しながら取り組んでいる。また、関係医療機関の看護師とも必要に応じて相談しながら取り組んでいる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関と連携を図り情報交換や相談している。情報交換する中でいつでも受け入れられる体制作りを職員全員で取り組み、早期退院に向けた相談・支援方法を話し合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に対しての意思確認を段階的に行い、本人や家族、担当医など関係者との話し合い、ホームとしての支援方法も話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療機関と連携をとりながら、本人・家族の意向も含め事業所としてどう取り組んでいけるかを考えながらチームとして取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	時間をかけ話し合いダメージ防止策の検討を行っている。馴染の関係を築いている人の面会等出来る限り支援出来る様に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ミーティング等を通し職員間の意識統一・向上に取り組み、職員全員のケアの取り組みにも注意をし、自尊心を傷つけないよう配慮している。特に排泄等に関わる対応や言葉かけには配慮をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の分かる力に合わせて、声かけの内容や方法を工夫し、出来るだけ自己決定できるように、困難な場合でも本人が自分で決めたという満足や自尊の感情が持てるように支援している。表情や視線などで意思を表示することができる方もいるので、コミュニケーション方法の幅を広げるよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝の会話、また本人の様子などからその日をどのように過ごしたいのかを本人とともに相談し、サービスプランに盛り込めるように支援している。朝のミーティング時に入居者さんの希望を優先して、1日の仕事の計画を立てている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問美容の活用や馴染みの理美容の活用が出来る様にしている。一緒に服を選んだり、必要に応じて髪を結ったり、逆に髪を整えてもらったり等、互いに楽しみが持てるようにしている。また、褒める事でより意欲を持てもらえるように心がけている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人と職員とが一緒に調理や片付けをしている。施行調査を行い、本人の好む食材を好む調理法で提供出来る様に配慮している。夏場は畑で早いが取れるので、収穫し、それ料理するという支援を行っている。季節の食材を取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医療的な部分も含め相談しながら入居者の健康・体調面も考慮しながら好みの物が楽しめる様にしている。また、楽しめる時間や場所作りにも努めている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックパターン表を活用しながら、入居者の状態に合わせて出来るだけトイレでの排泄やオムツ・パット使用を抑えるように取り組んでいる。また入居者さんにより排泄のサインを出している場合もあるので、それを見逃さず誘導できるように、どのようなサインがあるのかを観察・記録、職員間での情報の共有に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望を聞き、自由な時間に入浴してもらう。入浴を好まない方には、部分浴から慣れてもらい、入浴剤の活用で雰囲気作りをしたり、裸になって一緒に入り背中を流したりなど楽しみを持てるようにしている。また近隣の温泉利用などもし、必要に応じて家族の協力も得ている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠たい・眠りたいと感じれる環境や雰囲気作りをしたり、休む前の習慣を取り入れながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や習慣の把握に努め、本人の役割や楽しみ事をサービスプランに盛り込んでいる。調理参加や畑仕事、ゲームなどひとり一人の入居者さんに合わせて実施しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族と相談しながら、本人の能力に応じて本人にお金を管理してもらったり、買い物の際には実際に選んでもらったり支払をしてもらえるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ひとり一人の習慣や好み、希望に応じて、戸外に出かけています。戸外に出ることを遠慮したり、こわさを感じている入居者さんに対しては、戸外に目的を持っていたり、他の入居者さん達が楽しく戸外で活動している様子を見ていただいたり工夫しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	誕生日など行事に組み込んだり、家族の協力を得たりして、普段はいけない場所に個別に出かける機会を設けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話してもらったり、お礼の電話や手紙を書いてもらえる様に支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	広く開放的な玄関になっており中も見やすく入りやすくなっている。地域の活動に入居者・職員で参加する事で馴染みが出来たり、訪問に繋がっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	介護保険法指定基準において禁止となっている行為を具体的に勉強会や研修会で学び理解を深め職員全員で共通理解の下日々のケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	寄り添いケア、目配りの徹底をすることで鍵を掛ける必要のない体制を作っている。外に出たい入居者さんには積極的に外に出ていただき、あるいはその様子が見られた方には職員から外に誘い出させていただいています。開放感のある生活を心がけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	目配り・気配りを大切にし、職員間でも声を掛け合ったり、入居者との会話の中で気付きを大事にし安全の配慮に取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	いつでも使用出来るようにしながら、注意の必要な物品に関しては保管・管理に努め、使用状況にも目配りしながら危険防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット事例を記録し、職員全員で情報を共有することで、事故への発展を防ぐ活動をしている。 ひとり一人の入居者さんの事故のリスクを把握し、その対象に合わせたケア提供や環境改善などのリスク管理を行っています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり、定期的な訓練を実施している。	○	普通救命講習にて、応急救護や心肺蘇生法、AEDの使用方法など学ぶ機会を定期的に行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、定期的な避難訓練を実施。地域にも働きかけている。	○	運営推進会議に合わせて避難訓練を実施し、その様子を地域の方々に見ていただくことが出来ました。取り組みに対しまして高く評価をいただきましたとともに、緊急時に地域住民の協力を得るための働きかけとなりました。消防署立会の下での訓練を行い、避難方法を身につけている。また運営推進会議にて地域に協力が得られるよう働きかけをしている。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	現状に即したリスク対応に関して面会時や電話などにて話し合っている。	○	本人の気持ちを優先し、できる限り抑圧感のない暮らしを大切にすることを伝え、それによるリスクに対しては段階的に話し合いをする中で理解を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化の早期発見と対応に努めている。	○	朝、昼、夕の血圧と体温測定や必要に応じてのバイタルチェックを行っている。体調の変化など見られれば管理者や看護師に連絡し、必要に応じて病院受診をしている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストを作成し、薬効や副作用について周知できるようにしている。	○	全職員が服薬内容を把握できるようにしている。服薬変更があればミーティングで情報共有している。服薬支援をする職員と、飲んだ後の確認をする職員に分けている。状況に応じて関係医療機関との連携を取っている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の予防と対応に努めている。	○	排便の有無、食事や水分摂取量、活動状況を把握することで、食事メニューの変更や、活動時間を増やす取り組みを行っている。担当医にも相談しながら、その人に合った工夫をしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きが出来るように支援をしている。	○	義歯洗浄、歯磨きやうがい、口をゆすいでもらうなど、個々の力に合わせた支援の実施。歯科検診や必要に応じての歯科受診など行っている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録に残し、摂取量の確保に努めている。	○	上手く摂取できるように、個々の嗜好品をメニューに取り入れ、個別メニューでの対応ができるようにしている。ボランティアにて栄養士のアドバイスを受けている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	外部や内部の研修にて予防対策を取り決めている。	○	感染症予防のマニュアルがあり、内部での勉強会を実施し全職員が周知している。インフルエンザ予防に対しては全入居者さん職員と実施し予防に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮で安全な食材の使用と管理を実施している。食中毒警報が出たときには、保健所から連絡をもらっている。	○	調理器具や食器類は消毒し台所は常に清潔にしている。必要に応じて冷凍保存したり、鮮度の落ちている食材があれば処分している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	天気のいい日は玄関を開放し、外からでも中の様子が分かりやすいようにしている。	○	畑や花壇を作ることで野菜や花の成長過程について話をしたり、通りがかった人にも様子が分かるようにしている。ベンチや椅子を置くことでそこで休めるようにしている。玄関を開けることで出入りしやすい雰囲気作りを行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	住み心地良く過ごせるよう、見慣れている物や馴染みのある物、生活感漂う雰囲気作りを行っている。	○	昔のミシンやレコードなど置いたり、ホームにある家具やソファなどは新品のものを使わず、使い慣れたものを使用している。強すぎる光や音などにも配慮し、家庭的で落ち着ける環境作りに努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室や居間以外にも、ゆっくりと過ごせるように、いくつかの居場所作りをしている。	○	喫煙場所や、窓際の日の当たる場所、少人数で過ごせるソファや、一人でくつろげるソファなど居場所の工夫をしている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談し、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。	○	食器や洋服、タンスやベットなどの家具、仏壇や位牌など物の大小に関わらず、可能な限り暮らしの継続ができるように配慮している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な換気を行い、温度湿度計を各箇所へ設置し、居室や居間、浴室など空調の配慮を行っている。	○	各箇所の換気扇を使用したり、必要に応じ消臭スプレーを使ったりしている。また快適に過ごせるよう、入居者さんの状態を考慮し温度湿度を目安に、換気や空調の配慮をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要箇所には手すりを取り付けたり、必要に応じ杖や車椅子を使用したりと安全で自立した生活となるようにしている。	○ 身体機能の現状を職員間で周知し、安全に移動出来る様、歩行通路の確保を行い、自立の妨げとならないようにしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	安心して暮らせるように、工夫している。	○ 居室やトイレ、お風呂など分かりやすいように印を付けている。状態の変化による混乱や失敗があれば職員間で話し合い、必要に応じ環境整備を行っている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や花壇を作り、ベンチを置いている。裏の広場を活用し、外での食事や休憩など必要に応じた空間を活用。ベランダも利用し、外回りや空間を有効活用している。	○ 外での憩いの場や、洗濯物干し場など、入居者が楽しく活動できるように外回りの空間を有効活用できるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2／3くらい ③ 家族の1／3くらい ④ ほとんどできていない ①

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない ①
98	職員は、生き生きと働けている	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2／3くらいが ③ 職員の1／3くらいが ④ ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2／3くらいが ③ 利用者の1／3くらいが ④ ほとんどいない ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2／3くらいが ③ 家族等の1／3くらいが ④ ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）